

♪～大豆多収の鍵はマメな雑草・病虫害防除管理です～♪

両沼豆づくり情報 第4号



(令和4年10月12日)

発行：会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2113）

〃 金山普及所（電話0241-54-2801）

J A会津よつば各営農経済センター

○大豆収穫前の栽培管理のポイント

・汚損粒の原因となる、雑草と青立ち株の除去を行きましょう

1 大豆の生育概況

気温は、7月下旬以降も平年より高く推移しました。降水量は、子実の肥大がはじまる7月下旬以降も一定の降水がありました（図1）。

このように、子実肥大期の気温と降水量が確保されたため、農業総合センター会津地域研究所の作柄解析試験の大豆の生育は、平年よりも良好で、特に晩播の分枝数、着莢数が多くなっています（表1）。

管内の大豆の生育は概ね良好で、成熟期に近づいています。青立ち株や大型雑草が残草している場合は手取り等を行い、適期収穫に努めましょう。

表1 作柄解析試験における生育（農業総合センター会津地域研究所：会津坂下町）

品種名		播種期 (月/日)	出芽期 (月/日)	開花期 (月/日)	生育調査(9月1日)					
					草丈 (cm)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本)	着莢数 (莢/本)	乾物重 (g/m ²)
あやこがね	本年	6/01	6/09	7/23	132.5	77.4	15.4	4.1	60.9	961.4
	前年	6/01	6/09	7/24	119.5	74.0	15.4	4.2	51.5	735.7
	平年	5/31	6/10	7/25	116.9	71.3	15.2	4.7	58.9	775.1
	平年差比	1	-1	-2	113	109	101	87	103	124
あやこがね	本年	6/20	6/28	8/03	129.0	83.1	13.8	3.1	32.3	1135.7
	前年	6/21	6/27	8/02	121.6	77.0	14.0	1.6	24.5	630.0
	平年	6/20	6/26	8/03	120.3	76.5	14.4	1.9	27.4	663.9
	平年差比	0	2	0	107	109	96	163	118	171

注. 平年：前5カ年の平均値(H29年～R3年)。着莢数は2cm以上の莢数。

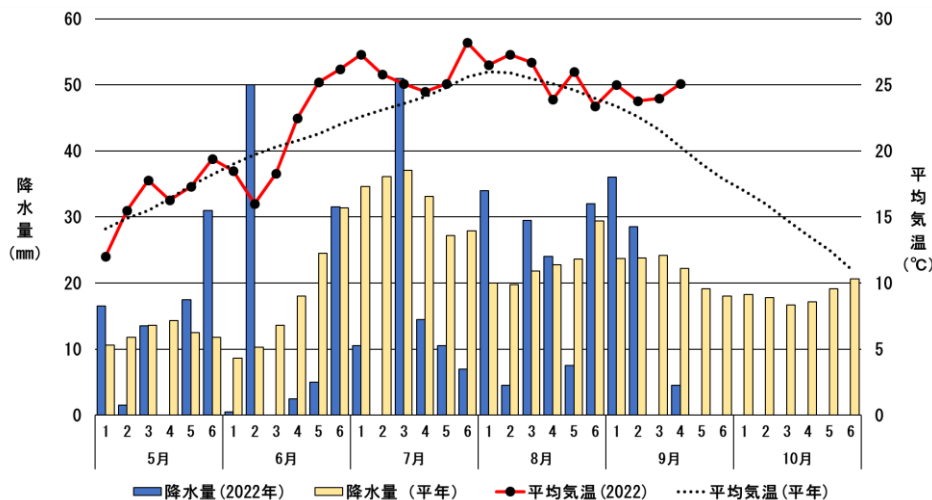


図1 生育期間の気温と降水量の推移（2022年 AMeDAS若松）

2 当面の栽培管理

(1) 収穫準備

ア ほ場の準備

(ア) 雑草の除去

アメリカセンダングサやシロザなどの大型雑草は、コンバインの損傷や汚損粒発生の原因になるため、収穫前に抜き取るか刈り取りを行い、ほ場外へ出しましょう。ほ場内に放置すると、種子が土の中に残り、次年度発生の原因となります。

(イ) 青立ち株の除去

莢着きが不良で、茎葉が青いまま残っている青立ち株は、茎葉の汁が汚損粒発生の原因となるため、収穫直前までに抜き取りましょう。

イ 収穫機械等の点検整備

麦類やソバ等で使用している普通型(汎用)コンバインで収穫する場合は、こぎ胴の回転速度や送塵弁の角度等の調整を大豆用にし、大豆用部品(受け網や土抜き板、リールゴム板等)に交換してください。

また、収穫作業の前に清掃を実施し、作業に支障がないか点検を行いましょう。

(2) 収穫作業

ア 収穫開始の目安

成熟期は例年10月中下旬頃です(表2)。今年の大豆の開花期も概ね平年並みとなっており(表1)、成熟期も平年並となる見込みです。計画的に収穫作業準備を行い、効率的に作業を進めましょう。

表2 成熟期と刈り取り時期の目安

品種	成熟期	刈り取り時期
あやこがね	10月15日～10月25日	10月25日～11月5日

イ 刈り取りの留意点

最適な刈り取り高さは、中耕・培土の有無や大豆の生育状態でほ場ごとに異なるため、試し刈りにより収穫ロスの状況などを確認し、最適な刈り取り高さに調整しましょう。刈り取り高さの目安は10cm～15cmです。

普通型コンバインの収穫は、穀粒損失が少なく、汚損粒が発生しない条件のときに行いましょう。株全体が茶色くなり葉が落ち、莢をふるとカラカラと音がし、茎をポキッと手で軽く折れるくらいが収穫時期の目安となります。収穫は、当日および前日に降雨がなく、水分の高い朝夕を避けて行いましょう。

青立ち株や雑草の汁による汚れは、クリーナーでも除けないため前もって除去します。収穫作業中に土をかき込んだときは、汚粒防止のため作業を停止し、安全のために必ずエンジンを停止してから清掃を行いましょう。事前に清掃ポイントを確認し、作業をスムーズに行えるようにしましょう。

☆秋が近づき、農作物の収穫時期も迫ってきました。忙しくなり、冬前に作業を終えるために焦ることもありますが、機械作業も増えますので、落ち着いて作業を行い事故には十分注意してください。

☆農薬は使用基準・使用方法に従い正しく使用しましょう